

閉会挨拶（3月19日）

運輸総合研究所理事長の佐藤です。お疲れのところ恐縮ですが、今後の予定のお知らせの前に一言申し上げます。

まず、貴重なお話を下さったトヨタの間嶋様、JR九州の木下様、西鉄の阿部様、東大の長谷先生、長時間にわたりご参加いただいた大勢の視聴者の皆様、そして当研究所の活動をご支援いただいている日本財団に御礼を申し上げます。

本日のセミナーのテーマは「新しいモビリティサービス」でありましたが、運輸総研では、今年度から日本財団の支援を受けて「新しいモビリティサービスの実現方策検討委員会」を4回開催するとともに、2月には東大及び日本みち研究所との共催で「持続可能な新しいモビリティの実現方策」をテーマとしてセミナーを開催したところであります。

運輸総研では、今後とも、「新しいモビリティ」を調査研究の最重要テーマの一つと位置付け、本日のようなセミナーの場も活用して、皆様と一緒に考えてまいる所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。

さて、本日のセミナーは、コメンテーターの長谷先生の東大での授業に3名の登壇者が講師として参画したことが、きっかけとなっています。そこで、少しお時間を頂戴して、この東大公共政策大学院交通・観光政策研究ユニット(TTPU)

の紹介をさせていただきます。資料をご覧ください。

T T P Uの起源は、資料の最初の●にあるとおり、2005年に設置された国際交通政策研究ユニットにまでさかのぼります。2019年度からは、交通政策に観光政策が加わり、資料の左下にある4つの講座が開設されています。

このうち、「国際交通政策」と「地域交通政策研究」を長谷特任教授が担当されており、当研究所の宿利会長が客員教授として指導しています。また、「観光政策概論」と「観光地域政策」を、いつも当研究所のセミナーに積極的に参加されている乾特任准教授が担当されており、私が客員教授としてサポートにまわっております。そして、T T P Uのユニット長は、公共政策大学院長であり、当研究所の評議員でもある大橋弘教授が務めておられます。

運輸総研はT T P Uと連携協定を結んでおり、今後も、セミナーの共催など相乗効果の高い活動をしてまいりたいと考えておりますので、皆様、ご期待いただきたいと思います。

私からは以上です。この後、今後の予定のお知らせがあります。

本日は、最後までご視聴いただき、誠にありがとうございました。